

## 「巨人」、「大鵬」、「卵焼き」

東北大学大学院理学研究科 山下正廣

私は小さい頃から、いろいろなスポーツをすることが大好きだった。中学生の時に、野球と駅伝では選手として佐賀県大会に出場したこともあるスポーツ少年であった。しかし、30才を越えてからは殆どスポーツらしいことをすることもなく、ただビールの飲み過ぎでお腹もせり出して、最近はおっぱらテレビでのスポーツ観戦に活路を見いだしている。

私のような1950年代生まれは小さい時は、プロ野球は「巨人」がめっぽう強く長嶋、王選手などスーパースターの活躍も素晴らしくて、多くの子供が「巨人」ファンであった。私も小学校に入学する前から野球に熱中し、中学2年の時には3年生を追い越して野球部のレギュラーになっていた。また相撲も大変人気があり、小学生の頃は夕方5時過ぎには村でテレビが1軒しかない家に集まって相撲を見せてもらっていた。当時は「大鵬時代」と言われていて大鵬と柏戸が東西の横綱でライバルであった。しかし、大鵬が圧倒的に強く、かつ肌が白くて均整のとれた体格と美しい顔に「大鵬」ファンは非常に多かった。また、我々の世代は小さい頃は美味しい食べ物は少なく、遠足の時などに母親が作ってくれるお弁当の中の「卵焼き」が大好きで、そのころは「卵焼き」が一番人気でもあった。つまり、我々は「巨人」、「大鵬」、「卵焼き」の世代であるわけである。

1年ほど前、夜10時過ぎに大学から帰ってたまたまテレビをつけたら、大相撲の大鵬親方がインタビューを受けていた。大鵬は北海道生まれで、父親がロシア人で母親が日本人のいわゆるハーフである。当時はその為に差別やいじめを受けていたと思われる。しかし、相撲界に入り稽古を積み重ね、最多優勝数を上げ、素晴らしい横綱であったことから、1代年寄りとして「大鵬部屋」を持つことを認められて後継者の育成に努めて来たが、60歳の定年で年寄りを引退して、「相撲博物館」の館長になる為にインタビューを受けていたわけである。そのときのNHKのインタビュアーが大鵬親方に向かって、「親方の現役当時は、『巨人』、『大鵬』、『卵焼き』が強くて、子供の大人気でしたが、どう思われますか？」と質問した途端に、大鵬親方の顔がきっと睨みつけるような顔に変わり次のような答えをした。「私は北海道の中学校を卒業するとすぐに、裸一貫で相撲の世界に入り人一倍稽古に稽古を積み重ね、さらに人一倍努力もして名横綱と言われるようになりました。ところが、いまの『巨人』を見てみなさい。金にモノを言わせて他チームの良いバッターやピッチャーを集めて、自分のチームを強くして、相手チームを弱くして勝とうとしている。私のような裸一貫で稽古に稽古を重ねて人一倍努力をして名横綱と言われるよ

うになった人間と、金にモノ言わせて勝とうとする『巨人』を一緒にしてもらったら困る。」という答えであった。私は目からうろこが落ちるような思いでこの場面を見ていた。なぜなら、私はプロ野球が大好きで、特に「アンチ『巨人』」で、巨人の試合がある時は教授室で仕事をしながら、時々、Yahoo で試合中継をチェックしながら、巨人が負けたのを確認すると安心して家に夜10時過ぎに帰って、テレビのスポーツニュースで巨人が負けた試合をすべてのチャンネルを変えて見てから寝るのが日課だからである。さらに私が巨人を嫌いになった理由が、大鵬親方が言った言葉と全く同じだから驚いたわけである。やはり、「大鵬」は偉大な横綱であったと思うと同時に、本当の苦勞をした人はまともな判断力を持っているという思いがして、大変感動してテレビを見終わった。

一方、視点を変えてみると最近の大学の研究も「巨人」と「大鵬」の関係と同じような状況になっている。政府による利益誘導の「大型プロジェクト」や「産学連携をうたい文句にするプロジェクト」の横行により、本来、基礎科学をやるべき大学人がエサ（「お金」）に釣られて、同じような研究テーマ、流行のテーマに走っている。まさに、企業でやるべき研究を大学人が恥も外聞も無く大学でやっている。まさに、「巨人」のやり方である。本来の大学の研究は「金」に釣られてやるものではなくて、時の政治・経済に左右されることなく、科学者個人の独創的なアイデアに基づく研究テーマを自由に推進すべきである。まさに、「大鵬」を目指すべきである。そのためには、政府・文科省は各大学に基礎科学が自由にできる基本的な研究費を十分に配分し、そのうえで、さらに緊急を要する「プロジェクト」にもお金を出すような政策が今、求められている。各大学からの研究費を巻き上げて、7+α大学にだけ重点配分をして「格差を助長する研究費配分」は将来的には、全国のいろいろな大学から今後出てくるであろうと期待される「新しい科学の目」を潰すことになる。そのことが結果的には、「日本の沈没」につながる。大学の研究者は政府・文科省のご機嫌を伺ったり、先取りしたような研究をするべきではなく、数十年後に「全く新しい分野」をつくるような今は誰もやっていないような未知の研究テーマをやるべきである。大学人はもっと大きな声を上げて政府・文科省の「科学・技術政策」を批判すべきである。

我々、大学人はいまこそ、「巨人」になってはいけなくて、「大鵬」になるべきである。

（追記：私が「長嶋」が大嫌いで、「王」が大好きである理由もご推察できるでしょう。）